

12月14日(土) 国立歴史民俗博物館と佐倉巡検

開催日：2019年12月14日(土曜日)

集 合：京成佐倉駅 改札外10:00集合(改札は一つ)。

※京成本線です。京成成田空港線ではありません。

ご案内：伊藤 等先生(元日本大学)

参加費：1,000円(予定、入館料含む)、雨天開催

締 切：12月10日(火)。参加者には集合場所などを記載したお葉書をお送りします。

国立歴史民俗博物館は佐倉城址内にある日本の歴史、民俗学、考古学を展示する歴史博物館です。展示はレプリカや立体地図なども多く使われています。訪問された方も多いと思いますが、展示リニューアルもあり、改めて訪れるのも有意義と考えました。

午後は佐倉城址や、城下町の街並みを散策します。また天候が良ければ周辺に足を伸ばします。

ルート案として、京成佐倉駅～国立歴史民俗博物館(昼食)～佐倉城址～佐倉武家屋敷(旧河原家住宅・旧但馬家住宅・旧武居家住宅)～佐倉順天堂記念館～旧堀田邸(国重要文化財・名勝(さくら庭園))～JR佐倉駅(16:30頃)を想定していますが、実踏調査後に変更の可能性あります。

11月中旬にホームページにルート案をアップいたします。参加申込はホームページ、E-mail、FAXで。



情報センター行事HP

展覧会情報

瀬戸内ヒストリー—芸予と備讃を中心に—

期 間 ～11月24日

会 場 愛媛県歴史文化博物館(西予市)

電 話 0894-62-6222

G空間EXPO

期 間 11月28日～30日

会 場 日本科学未来館(江東区)

江戸屋敷・大坂蔵屋敷

期 間 ～12月1日

会 場 広島城(広島市中区)

電 話 082-221-7512

しきしまの大和へ—アジア文華往来—

期 間 ～12月1日

会 場 古代オリエント博物館(豊島区)

電 話 03-3989-3491

※地図・地理に直接関係する展示ではありません。

やっぱり絵図がすき!—博物館で旅する仙台藩と城下町—

期 間 ～12月1日

会 場 仙台市立博物館(仙台市青葉区)

電 話 022-261-1111

災害と地域の人々

期 間 ～12月8日

会 場 門真市立歴史資料館・市立枚方宿鍵屋資料館・淀川資料館・鴻池新田会所の4館連携

電 話 072-843-5128(鍵屋資料館)

※地図・地理に直接関係する展示ではありません。

測量×地図 測り・描き・守り・伝える

期 間 ～12月8日

会 場 新宿歴史博物館(新宿区)

電 話 03-3359-2131

羽化する渋谷—渋谷駅135年の時系列模型から見る2020年

期 間 ～12月14日

会 場 昭和女子大学光葉博物館(世田谷区)

電 話 03-3411-5099

絵図・古文書で見る箱根八里

期 間 ～12月15日

会 場 三島市郷土資料館(三島市)

電 話 055-971-8228

神戸市立博物館名品展—まじわる文化、つなぐ歴史、むすぶ美—

期 間 ～12月22日

会 場 神戸市立博物館(神戸市中央区)

電 話 078-391-0035

※台風15号、19号により、博物館・美術館・イベントの営業や開催内容が変更となる場合があります。事前にご確認下さい。

mini地図NEWS

▶ 「Mini Tokyo 3D」がすごい!

Mini Tokyo 3D (<https://nagix.github.io/mini-tokyo-3d/>) は東京首都圏の公共交通状況(電車(地下鉄も)・飛行機)を現時点位置(ライブ)で確認できるミニチュア風3Dマップです。「第3回 東京公共交通オープンデータチャレンジ」で動的なオンライン情報と運行情報が公開されているデータを使用しているようで、電車の位置や遅延などがライブで確認できます。(GIGAZINE ほか)



Mini Tokyo 3Dの画面(東京駅付近)。色の箱はライブに動く電車で、路線色に対応。クリックすると行き先などのデータが見られる。オレンジの球で示した電車は遅延しているもの。



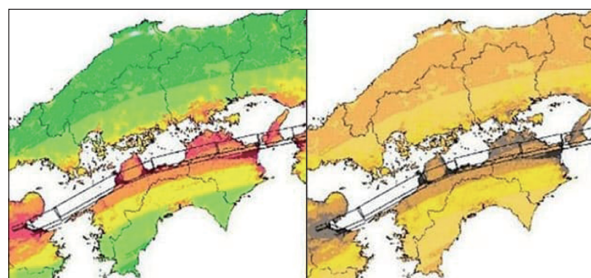
▶ SMALL WORLDS TOKYOが2020年春開業

ミニチュアつながりでもう一つ。世界最大の屋内型ミニチュア・テーマパーク“SMALL WORLDS TOKYO”が2020年春に東京・有明にオープンします。総面積8,000平方メートルは世界最大級。「関西国際空港エリア」や「エヴァンゲリオン 第3新東京市エリア」など7エリアがあり、スケールは1/80。自分のミニチュアをエリア内に置ける住民権付きプログラムもあります。(ファミ通.com ほか)

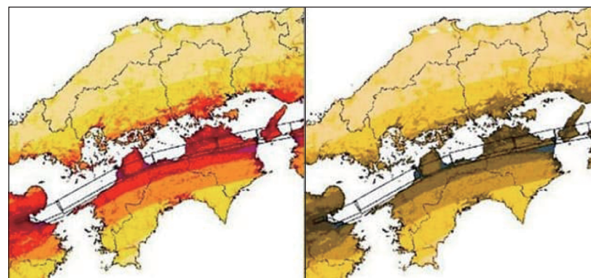
▶ 地震地図、色覚障害に配慮 危険度見やすく

地震本部は2019年7月16日、地震調査研究推進本部政策委員会第73回総合部会で「地震本部の成果物の配色方針について(案)」を発表しました。描画対象のカラースケールは小(薄灰)～青、淡黄～朱～大(赤紫)までの9段階とし、連続表示は避け、段階表示とすることや、色覚障害者にもわかりやすいよう、緑色の使用をやめるよう示されました。また、背景色は白、灰、水色の中から選択させ、不明は灰色とするなどのカラーデザインポリシーが示されています。(資料 総73-(3) 地震本部の成果物の配色方針について(案) などより)

資料内「配色の変更イメージ(その1)」を「色のシミュレータ」(浅田一憲氏)で色覚障害の方が見たイメージに変換したものの。このアプリはApp StoreやGoogle Playから無料でダウンロードできる。



従来の彩色と色覚障害での見え方(緑とオレンジが同値に見える)



今回の彩色方針による色覚障害での見え方

地図の迷道

▶ 地図の色彩はカラーユニバーサルデザインで

日本では男性で4.5%、女性で0.2%の頻度で先天性の色覚障害のある人がいます。その中の99.9%が1型色覚、2型色覚と呼ばれる赤～緑の波長(色)の識別が困難な障害です。かつて行われた色覚検査は2002年、健康診断の必須項目から削除されました。しかし、2014年の文部科学省の通知、「児童生徒等が自身の色覚の特性を知らないまま不利益を受けることのないよう…」によって再開機運が高まってきています。

色覚障害では黒板の赤いチョークや赤のレーザーポインターも見えにくいものです。色覚障害によって差別などを行うことは戒めるべきです。また、先天性の障害のない人も加齢(白内障など)によって色の見え方は徐々に変わってくるものなのです。今後は、障害のある人もない人も自然に使えるカラーユニバーサルデザイン(CUD)を推進すべきでしょう。

地図表現でもCUDは大切です。緑と赤の補色は、無彩色の緑をつけたり明度や形を変える、模様を加えるなどの工夫をすることや、色文字や線は太いものを使う、色相を重要度の区別としないなどの配慮が必要でしょう。